

1,000人のヒヤリハット調査からわかったおぼれの予兆を可視化

「これで、おぼれた。『おぼれ100』」

うみらい環境財団

これで、おぼれた。『おぼれ100』

1,000人を対象としたヒヤリハット調査に加え、報道調査や行政データ等に基づき、溺れの「入口」「予兆」を100パターン抽出・可視化した水難事故の予防情報コンテンツです。
共感しやすいストーリーを通じて水難事故対策を「自分ごと」として捉える意識を醸成するとともに、「生きたデータベース」の構築・発展により「そなえはみんなで作る」社会の実現を目指しています。

「これで、おぼれた。『おぼれ100』」は公式サイトならびにInstagramで公開中です。



* 次のページ以降、「これで、おぼれた。『おぼれ100』」の表紙一覧を掲載しております。

見過ごされがちな「おぼれ」の現状

従来の調査では、水難事故は「溺死」と記録されるに留まり、溺れた際の具体的な状況に関するデータは不足していました。2024年度の調査で約5人に1人が溺れ経験を持つことが判明したものの、水難事故には至らなかった溺れの詳細なデータ収集は依然として不十分でした。そこで、ハインリッヒの法則をヒントに、ヒヤリハット調査を実施しました。

ハインリッヒの法則

1件の重大事故の背後には、
29件の軽微な事故が隠れており、
300件の違和感が
潜んでいるとされています。



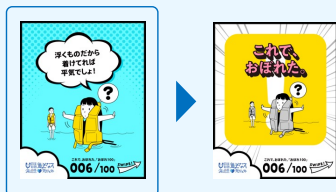
ヒヤリハット調査

溺れ経験のある1,000名を対象として、2024年8月16日から20日にかけてアンケート調査を実施しました。この調査では、溺水時の具体的な状況（溺れの経緯、原因など）について詳細な情報を収集し、溺れに至ったシーンやシチュエーションを分析・整理しました。

Instagram 投稿イメージ



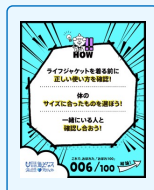
共感シチュエーション



WHY (溺れ理由)



HOW (対策)



キャッチコピー



公式サイト

Instagram



本取り組みは次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる「日本財団「海と日本プロジェクト」」の一環です。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

日本財団 海のそなえプロジェクト広報 田尻

social-pr@world-eggs.jp



